

平成30年度（一財）山口県教育会の活動

I 活動方針

明日を拓く（5年次／7年計画）

— 豊かな実践に高める（最終年次／3年計画） —



山口県教育会は、民間教育団体として防長教育の伝統を受け継ぎ、①教育世論の高揚 ②教育研究の奨励 ③教育環境の整備 ④教育事績の顕彰 ⑤文化遺産の継承、に創立以来一貫して取り組み、山口県教育の振興に寄与してきた。

平成26年度から、主題「明日を拓く」を掲げ、「混沌とした社会の中にあっても、将来に明るいビジョンを描き、自分の進むべき道を力強く切り拓いていく力の育成」をめざして、7年計画で主題達成のための各種事業を展開している。

「実践」の段階に入った平成28年度からは、副主題を「豊かな実践に高める」とし、3年計画で各種事業の内容改善、充実に取り組んでいる。

第1年次では、日本連合教育会研究大会の参加者についてこれまでの選考方法を見直し、研修の成果を子どもたちに直接還元できる現職の先生方を栃木大会へ派遣するなど、事業の内容を見直し、内容の改善に取り組んだ。第2年次では、現職研修奨励事業や地域活性化活動奨励事業などの助成金を大幅に増額して、できるだけ多くの学校、団体等が本会の助成事業を活用できるようにするなど、事業内容の充実に取り組んだ。

3年計画の最終年次に当たる本年次は、「教育維新・青年教師の集い」の研修内容充実を図るなど、各種事業の内容充実、深化に取り組み、副主題「豊かな実践に高める」を達成したい。

本会は、県内にくまなく支部組織を有し、それぞれの地域に根差した活動を続けてきた民間教育団体である。主題「明日を拓く」のもと、各支部がそれぞれの地域でその地域の特徴を活かした教育支援に取り組み、「人と人」、「人と自然と文化」が共生・共存する豊かなコミュニティづくりに貢献していきたい。

また、本年度は、「第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会」を山口市において開催する。関係主催団体や山口支部と密接に連携して、山口市の教育の特徴が表れる大会にし、教育世論の高揚を図りたい。

II 事業計画

1 教育世論の高揚事業

○やまぐち教育の日・教育県民大会の開催

第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会山口大会

主催（一財）山口県教育会ほか24団体

期日 平成30年11月17日(土)

会場 山口県教育会館ホール

内容

- ・アトラクション 山口市立大殿小学校合唱部
- ・開会行事
- ・「金子みすゞ賞」童謡詩、「わたしの志」作文入賞者表彰及び朗読
- ・実践発表 山口市立湯田中学校
「地域とともにある学校づくり」
発表者 校長 井原 良
- ・記念講演 「講師等依頼中」
- ・閉会行事

○教育活動の推進

「元気やまぐち」三つのアクション

- ・あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ・笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ・ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

○地区別教育振興フォーラム

時期 平成30年11月1日(木)～7日(水)の教育週間を中心に開催する。

会場 各地区の開催担当支部が決定する。

内容 地域活動の発表、講話、シンポジウム

○教育活動の情報発信

- ・情報紙「山口県教育」の編集・発行
- ・ホームページの随時更新

○各種キャンペーンとの連携推進

2 教育研究の奨励事業

○豊かな実践に高める創造ある研究への助成

○教育維新・青年教師の集いの開催

第9回教育維新・青年教師の集い

期日 平成30年8月6日(月)～7日(火)

会場 パルトピアやまぐち

参加者 小学校教諭、中学校教諭 各6人程度

内容 「小中学校社会科 歴史的領域」

指導実践例に基づく発表、意見交換

指導案作成、模擬授業、研究協議

申込締切 平成30年6月8日(金)

○学校教育、社会教育の支援

現職研修奨励事業

対象 個人、学校、グループ、サークル

内容 教育に関する研修活動で、その重要性、継続性、発展性が他の参考になるもの

助成 個人研修……………1件3万円以内
学校研修、グループ、サークル…1件5万円以内

申込締切 平成30年6月15日(金)

県小学校・中学校教育研究会への助成

公立学校教頭会への助成

○日本連合教育会研究大会への参加

第70回日本連合教育会研究大会桐生大会

期日 平成30年8月23日(木)～24日(金)

会場 桐生市市民文化会館

- ・全体会
- ・記念講演 寶田 恭之 氏
(群馬大学理工学研究院 特任教授)
- ・アトラクション 「八木節」
(桐生市内小学校金管バンドクラブ)
- ・分科会 各教科・道徳など16分科会
- ・参加経費 参加費、交通費、宿泊費は、
(一財) 山口県教育会が負担する。
- ・参加申込 (一財) 山口県教育会へ

明日を拓く - 豊かな実践に高める -

3 教育環境の整備事業

○「人と人」「人と自然と文化」を大切にする地域活動の支援奨励地域活性化活動奨励事業

- 対象 趣旨に適合した一般団体、生涯学習関係の諸団体、幼稚園・保育所（園）・こども園・学校とそのPTA・大学等
- 内容 地域の活性化を図るため、対象となる上記団体が、地域と連携して展開する教育活動、伝統文化・文化遺産等の継承活動
- 助成 1件当たり5万円以内
- 申込締切 平成30年6月15日(金)

○支部組織の充実

- ・支部研修の充実
- ・会員目標 12,000人
小・中学校教職員の70%加入
- ・団体、機関への教育会加入の勧誘
- ・支部活動費の有効活用

○地域活動の推進

地域活動振興助成事業

- 対象 山口県教育会支部
支部と連携する諸団体
- 内容 支部組織・機構の整備充実活動、教育世論を喚起・結集する活動、教育に関する県民の意識を高揚する活動、環境整備・青少年の健全育成活動
- 助成 活動内容によって決定
- 申込締切 平成30年7月6日(金)

○学校、公民館（地域交流センター）、自治会等との連携

- ・学校、公民館（地域交流センター）、自治会との連携活動の充実
- ・公民館（地域交流センター）祭り、地域の祭り等におけるPR活動

○モデル地区、支部指定事業の推進

4 教育事績の顕彰事業

○「わたしの志」作文の募集と表彰

第10回「わたしの志」作文募集

- ・募集部門 小学校（4年生以上）、中学校、高等学校の3部門
- ・表彰 第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会山口大会で表彰
山口県教育委員会教育長賞 一編
山口県教育会長賞 各部門一編
松風会理事長賞 一編
佳作 各部門数編
- ・募集締切 平成30年9月12日(水)

○松陰に親しむ会（平成29年度防府支部・萩支部）

○松陰の道歩行大会（平成29年度防府支部）

○松陰研修グループの支援（平成29年度萩支部）

○郷土の偉人・文人に学ぶ会（平成29年度防府支部）

○徳地幕末維新歴史放談の会（平成29年度佐波支部）

○松風会共催事業の支援

5 文化遺産の継承事業

○「金子みずゝ賞」童謡詩の募集と表彰

第31回「金子みずゝ賞」童謡詩募集

- ・募集部門 小学校、中学校、高等学校・一般の3部門
- ・表彰 第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会山口大会で表彰
山口県教育委員会教育長賞 一編
山口県教育会長賞 各部門一編
学校賞 一校
佳作 各部門数編
- ・募集締切 平成30年9月12日(水)

○支部、地域の文化活動の支援

- ・郷校「徳修館」顕彰保存活動（平成29年度周南熊毛支部）
- ・「花いっぱい運動」を通して社会的な連帯感を高揚させる活動（平成29年度由宇支部）
- ・「ふるさと歴史探訪」を通して地域の歴史認識を深める活動（平成29年度岩国支部）

6 編集出版事業

- ・「高校生活への道しるべ」の編集出版
- ・「思春期の子どもをもつ親の悩みに答える20章（改訂版）の頒布
- ・学校給食関係諸帳簿等の頒布・「松陰読本」「わたしと小鳥とすずと」等の頒布
- ・吉田松陰座像の頒布

7 会館管理運営事業

- ・研修室、会議室、ホールの稼働率向上
- ・計画的な改修の推進

詳しくは、ホームページで
(<http://ykyoikuk.or.jp>)

III 予算

一般会計

収入の部 (単位: 円)

科目	予算額	備考
基本財産運用益	2,260,000	
受取会費	18,225,000	通常、終身等会費
受取補助金等	699,000	山口市、民間団体等
受取寄付金・雑収益	101,000	
評価損益等調整	13,646,000	
収入合計	34,931,000	

支出の部

科目	予算額	備考
事業費	29,864,000	助成金、活動費等
管理費	5,067,000	会議費、通信費等
支出合計	34,931,000	

事業会計

収入の部 (単位: 円)

科目	予算額	備考
事業収益	6,836,000	出版事業
雑収入	461,000	
評価損益等調整	284,000	
収入合計	7,581,000	

支出の部

科目	予算額	備考
事業費	6,576,000	印刷費、運搬費等
管理費	1,005,000	会議費、手数料等
支出合計	7,581,000	

会館会計

収入の部 (単位: 円)

科目	予算額	備考
事業収益	16,000,000	ホール・研修室使用料
受取負担金	22,100,000	入居団体負担金
雑収入	400,000	自販機、利息等
経常損益等調整	1,030,000	
収入合計	39,530,000	

支出の部

科目	予算額	備考
事業費	26,800,000	修繕費、消耗品費等
管理費	12,730,000	光熱費、会議費等
支出合計	39,530,000	

（一財）山口県教育会の事業を紹介します

教育世論の高揚事業

やまぐち教育の日・教育県民大会

- 第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会山口大会
- ・日 時 平成30年11月17日(土) 12:30～
- ・会 場 山口県教育会館 ホール
- ・主 催 (一財)山口県教育会ほか教育関係24団体
- ・共 催 山口市教育委員会

教育活動の推進

- 「元気やまぐち」三つのアクション
- ・あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ・笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ・ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

地区別教育振興フォーラム

- ・時 期 教育週間(11/1～7)を中心に実施
- ・開催地 地区内の支部が協議して決定
- ・内 容 体験や地域活動の発表、講話、シンポジウム

教育活動の情報発信

- 情報紙「山口県教育」
- ・月1回編集、発行 特別号(4月、10月)
- ・全会員、教育関係者に配付
- 各種キャンペーンとの連携推進
- ホームページ (<http://www.ykyoikuk.or.jp>)



教育研究の奨励事業

豊かな実践に高める創意ある研究への助成

教育維新・青年教師の集い

- 第9回教育維新・青年教師の集い
- ・期 日 平成30年8月6日(月)～7日(火)
- ・会 場 パルトピアやまぐち
- ・研究教科 社会科(歴史的領域)

学校教育・社会教育の支援

- 現職研修奨励事業(個人・学校・グループ・サークルの研修を支援)
- 県小・中学校教育研究会、公立学校教頭会への助成

日本連合教育会研究大会への参加

- 第70回日本連合教育会研究大会桐生大会
- ・期 日 平成30年8月23日(木)～24日(金)
- ・会 場 桐生市市民文化会館



教育環境の整備事業

「人と人」「人と自然と文化」を大切にする

地域活動の支援奨励

- 地域活性化活動奨励事業の拡充
- 地域活動の推進
- 支部組織の充実
- 学校、公民館(地域交流センター)、自治会等との連携の推進
- モデル地区・支部指定事業



明日を拓く -豊かな実践に高める-

教育事績の顕彰事業

「わたしの志」作文募集と表彰

- 第10回「わたしの志」作文募集
- 募集 3部門〔小学生（4年以上）、中学生、高校生〕
- 各賞 やまぐち教育の日・教育県民大会山口大会で表彰
 - ・最優秀 山口県教育委員会教育長賞 全部門から1編
 - ・優秀 山口県教育会長賞 各部門ごとに1編
 - ・優秀 松風会理事長賞 全部門から1編
 - ・佳作 各部門ごとに数編

松陰に親しむ会

- ・「松陰を学ぶ会」「松陰に親しむ会」

松陰の道歩行大会

松陰研修グループの支援

郷土の偉人・文人に学ぶ会

松風会との共催事業



文化遺産の継承事業

「金子みすゞ賞」童謡詩募集と表彰

- 第31回「金子みすゞ賞」童謡詩募集
- 募集 3部門〔小学生、中学生、高校生・一般〕
- 各賞 やまぐち教育の日・教育県民大会山口大会で表彰
 - ・最優秀 山口県教育委員会教育長賞 全部門から1編
 - ・優秀 山口県教育会長賞 各部門ごとに1編
 - ・学校賞 全応募校から1校
 - ・努力賞（佳作） 各部門ごとに数編

支部、地域の文化活動の支援

- 郷校「徳修館」顕彰保存会
- 徳地人形浄瑠璃継承活動
- 和田三作神楽継承活動
- 地域の歴史認識を深める活動



編集出版事業

出版物等の規格・製作

吉田松陰関係	維新の先覚吉田松陰 松陰読本 松陰先生に学ぶ 松陰と道 吉田松陰座像（大・小）	教育関係	高校生活への道しるべ 思春期の子どもをもつ親の悩みに答える20章 親の教育手帳 山口県婦人手帳	学校事務関係	中学校出席簿 学校給食関係（日誌、物資受払簿、衛生点検票、検食簿）
金子みすゞ関係	わたしと小鳥とすずと ほしとたんぼぼ 日めくり	一般教養関係	CD「ふるさと山口わが校歌」 ・周防大島町編 ・徳地町編 ・阿東町「阿東中校区」編 ・阿東町「阿東中校区」編 ふるさと叢書（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）山口県教育史		

会館管理運営事業

- ・施設の稼働率向上
- ・運営の合理化とサービス向上
- ・計画的な改修の推進



平成29年度やまぐち教育の日の協賛行事を紹介します

ひまわり先生の「Let's五感 Lessonで元気王国」

月いつでも どこでも だれとでも ゆかいに音楽月 山陽小野田市立埴生幼稚園

～ひまわり先生のつぶやき～

教え込まず、詰め込まず、レベルやランク、標準や比較もない。子どもが発する知的好奇心と生命のエネルギーを受け止め「あそびdeまなび」を五感で体得！「きらきら感性 どんどんふくらむ創造性」を培うために……

期 時：毎月 第2火曜日

10時50分～11時20分

会 場：子育て広場「サンサン広場」

参加者：園児・保護者・職員 約50名

ひまわり先生の Let's 五感 Lesson

いつでも、どこでも、だれとでも、ゆかいに音楽

- ♪ あそんでたら音楽しちゃった！ヤル気のコツ！
- ♪ 「99」の練習より「1」のステージを！
- ♪ 楽譜の向こう側に広がる世界を見に行こう！
- ♪ 技術以上の、人の輪・心の輪！
- ♪ 音楽をキャッチする「脳・心・体」！
- ♪ 今日のあなたが、あなたの「音楽」そのもの！
- ♪ 「表現」は見えない力の大爆発！
- ♪ 先生の感性と創造性が指導力を左右する！
- ♪ ゆかいに生きれば音楽もまたゆかい！
- ♪ 好奇心を形に！スキルアップチャレンジ！
- ♪ 赤ちゃんから百歳まで、生徒も先生も、さあ！

きらきら感性すくすく個性どんどんふくらむ創造性 音楽教育広場

とうさんゆび
かあさんゆび
にいさんゆび



フラワーフェスティバル（学習発表会）

山陽小野田市立高千帆小学校

日 時：平成29年10月11日(土)

8時50分～11時

参加者：約1,000名

(児童・保護者・地域)



合唱、合奏、劇、などなど。
この日はみんなが主役。
笑顔いっぱい夢いっぱい、
みんなの元気を届けます。



農 業 祭

テーマ 大同団結 ～心を一つにみんな笑顔で～

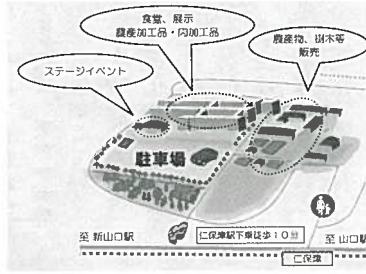
山口県立山口農業高等学校

多くのお客さんが来校され、今年も盛大に行われました。また、そのプレイベントとして、15日(水)には、山口県出身のプロミュージシャン吉田豊さん率いるジャズカルテットのコンサートが行われ、16日(木)には、生徒が普段の学習成果を発表する「地域活性化・起業化プラン発表会」なども行われました。

日 時：平成29年11月18日(土)
9時～13時30分
参加者：約2,500名



農産加工品の販売



農産物の販売



起業プラン発表会



食事(ピザ)の販売



ジャズコンサート

心の冒険・サマースクール ジョブプログラム

～「職」と「食」のプログラム～

山口県教育庁社会教育・文化財課

仕事をさせてください!



(地域の生産者へのお願い)

大きくなってね!



(牛のお世話)

「ジョブプログラムin山口」

期 日：平成29年10月14日～15日

参加者：小学校5・6年生 16名

「ジョブプログラムin周防大島」

期 日：平成29年11月11日～12日

参加者：小学校5・6年生 14名

- がんばる力が強くなりました。
- 協力することを学校のクラスでも活かそうと思いました。
- 仕事は、丁寧にきちんとやるのが大切だと思いました。

丁寧に仕事をしよう!



(いりごの選別)

みんなで力を合わせよう!



(果樹のための肥料運び)

美味しいみかんになりますように!



(みかんの袋掛け)

みんなで料理を作ろそ!



(頂いた食材でクッキング)

自然の中での体験活動を通して子どもたちの生きる力を育てよう!

夢と知恵とかかわりを追い求める学校



周南市立遠石小学校

校長 兼 重 光 雄

校長五校目の赴任校として着任した遠石小学校である。この間の私の学校経営方針は一貫して「夢と知恵とかかわりを追い求める学校」づくりである。「夢」とは、自身の人生のベクトルであり、将来めざす姿を自己実現させていくためのエネルギーと捉えている。「知恵」とは、学校で学んだことを生活の中に生かしていく、学びの活用力、応用力、そして、「かかわり」とは、自分の成長や学びを錬磨し、補充・深化・拡充する場であると考えている。学校経営を任せられた校長は、目の前の子どもたちが、激動と変革の次代を主体的にたくましく生き抜いていくために、学校は何をめざすべきかを見据えて学校経営に当たることが求められる。そのためにも一歩でも半歩でもその具現化が図られるよう日々の教育実践に当たってはならない。そこで、以下の項目を大切にしながら教育実践に取り組んでいる。

自らの学びを実感し、創造する授業づくり

授業を仕組む際、子どもたちには意欲的・主体的に取り組む姿を期待する。そのためには、与えられた学びではなく、目的意識をもった学習展開が大切になる。本時のめあての板書、本時の振り返りの場の充実、正に個々の課題解決学習からのアプローチである。自分なりの取組で追究し、自分の納得のいく学習経験を積みこくことは、学びの充実感と自信を獲得する。そのような学びこそ、豊かな学びであり、事後に生きて働く確かな学力になると考える。このようなメタ認知のある授業を追い求める教員集団をめざしている。

読書活動を通じた、感性豊かな子どもの育成

休み時間ともなれば、ある意味賑やかなになる本校の図書館である。読み聞かせボランティアの協力を得ての子どもによる選書会、図書委員会の子どもたちの様々なイベントを通して、本を身近な存在として感じ、様々なことを学び取っている。本から得るものは、学力を支える「知」の基盤であるとともに、豊かな感性や創造力を育み、豊かな心の醸成にも大きく寄与している。更に魅力ある学校図書館経営を通して、豊かな人間性を磨き出したい。



受容と共感を基盤とした集団づくり

個を大切にしている教育の推進とともに、集団の中で自己の在り方を意識させる教育の大切さを実感する。そこで、児童の自治的・能動的な活動を通して、自らが集団に寄与しようとする学びの場を保障するため、特

別活動領域の教育活動を大切にしたい。本校では、様々な縦割り班活動を仕組み、互いが受容し、共感できる場を通して、温もりを感じ合える集団形成をめざしている。新たな取組として、全校朝会の実施、互いの取組を認め合うコーナーの設置、委員会からの提案を全校での共同実践項目とし、全校児童が遠石小集団の一員として、自分のあるべき姿を意識し、集団へのかかわり方を見つめようとしている。私たち教員は、子どもたちの思いや願いの実現を支援する集団でありたい。

コミュニティ・スクールとしての充実

児童が企画した地域美化活動に共に参加していただき地域コミュニティの方、校外学習での学習支援としてサポーター役を買って出てくださいる保護者、毎朝の児童の安全を見守ってくださる地域のお年寄り。地域の学校としての遠石小は、決して現役児童や教職員だけの学校ではないことがうかがえる。コミュニティは管理職対応という今では懐かしい状況は薄らいできた。故に、「学校運営」「学校支援」「地域貢献」という三つの視点が、具体的な取組として定着し、学

校・家庭・児童・地域の皆が「おらが学校」意識を今以上に高め共有し、更なる学校力向上につながるようにしたい。「PTAや地域の活動に参加する先生が増えてきて嬉しい」との声が聞かれた。人材も育っていることがありがたい。



合言葉は「ワン・チーム」!



下松市立久保中学校

校長 瀨崎 美幸



久保中学校は下松市の北東部に位置する。古くから山陽道の交通の要衝として栄えた地域であり、現在も国道2号線が校区の中央を縦貫している。学校規模は生徒数二百九十四名、全十三学級の中規模校で、今年度、創立七十周年の節目の年を迎えた。地域住民の方々は独立自尊の気概に富み、教育や地域づくりに対しても非常に熱心な土地柄である。

教職員の「ワン・チーム」づくり

年度当初の職員会議で、学校教育目標実現の方策を具体化した重点七項目を全教職員に示した。この中で特に「チーム力の向上」を重視したが、これは、地域と学校との連携・協働や、いわゆる「チーム学校」の具現を目指すことはもちろん、その土台として、まずは自分たち教職員の組織力を高めることが大切と考えたからである。同時に、どの学校でも起こり得るいじめや生徒指導上の課題、授業改善や学力向上、さらには綱紀保持など、学校課題克服の契機は教職員の組織力にあると考えたからである。そこで、合言葉として「ワン・チーム」を掲げ、職員朝礼や職員会議等で話す機会にはいつもこの合言葉を口に出すようにした。

方針は単純でブレないことが大切という考えから、一年間ひたすら「ワン・チーム」と言い続けた。(なお、この合言葉は、尊敬するかつての勤務校の校長先生のオリジナルで、私はこれに倣っている。)この合言葉を意識しながら、常に情報共有と役割分担を行い、随時分掌や学年スタッフが校長室に集合して、頻繁に協議する機会をもつことを心がけた。これによりチームプレーや連係プレーを大切にしている教職員の姿勢が定着し、平素の職員室での些細な相談や情報共有はもちろん、生徒指導上の課題に対しては、生徒指導と教育相談担当教員の主導により、関係する教職員同士が情報共有してチームとして対応するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、児童相談所等の専門家や市教委・市の各関係各部署との連携も積極的に行ってきたため、課題に対して学校が単独で対応に苦慮することはなくなった。

コミュニティ・スクールの「ワン・チーム」づくり

本校は、平成二十八年度にコミュニティ・スクール(以下CS)の指定を受け、現在、やっと二年を経過したところである。初年である一昨年度は研修を中心とした取組であったため、地域と協働した実際の動きは昨年度からとなった。

とは言え、先述のとおり久保は教育熱心な土地柄で、既に様々な充実した活動が行われてきている。なかでも「たくましい久保っ子を育てる会」は、子どもたちと共に地域づくりを行う取組を三十年近くにわたって

継続しており、昨年度その功績により内閣総理大臣表彰を受賞した。また、下松市がCSの機能の一つとして掲げる小・中連携についても「久保中学校区小中連携教育協議会」が平成二十三年度に発足し、研修や生徒指導等において綿密な連携を図っている。



下松市立久保中学校CS
マスコットキャラクター「くぼ」

こうした中、本校CSの立上げに当たっては、これら地域の財産を活かしながら、地域の一員として自立した子どもたちを育成するという目標を共有するとともに、学校課題解決の視点から、CSとしての組織や活動内容を整備することとした。そこで、以前から行ってきた地域行事への生徒ボランティアの派遣等を「基本プラン」、学校課題解決のための新たな取組を「重点プラン」として位置づけ、地域との「ワン・チーム」づくりを目指した。

昨年度から取組を始めた「重点プラン」には、家庭でのインターネットの使い方やルール作りや、小学校と連携した部活動見学会の実施、また、高校生ボランティアの協力のもとでの質問教室などがある。さらに、生徒によるマスコットキャラクターの図案募集や審査、婦人会と連携して校内に花を活ける活動の「笑久保(えくぼ)フラワーデー」も新たに実施し、地域の方々に久保中CSを認知してもらおうとともに頻繁に中学校に足を運んでいただき生徒たちと触れ合う機会を増やす取組もスタートしている。





「分かる授業」で学級づくり

萩市立明倫小学校

教諭 山本 恵子

四月。身が引き締まる季節がやって来ました。新しい子どもたちとともに学級を創っていく一年の始まりです。引継書類に目を通したり、教室の準備をしたりしながら、子どもたちにどんなことを語りかけようかと考えます。ここに、今年度の覚悟が表れるような気がしています。

私は、学級づくりは「分かる授業」をきちんと行うことが基本だと考えています。授業を「分かる、できる、楽しい」と感じるのが、自分の力を伸ばしたいという気持ちにつながると同時に、友達の存在も大事にできると思うからです。授業の中では、不完全な答えでもよいこと、自分の思いを言葉にすることの大切さや友達から学ぶことの意義を繰り返し伝えていきます。そして、これらのことが表れた姿が見られた時は、しっかりとほめて価値付け、「みんなが学び合うことはすばらしいことだ」という風土を積み重ねていきます。

さらに、学校行事や家庭学習、生活のルールの指導の中でも、自分と友達を結び付けて、よりよい姿について考えさせていきます。一人ひとりの頑張りや学級の力を高め、それがまた、一人ひとりの自立につながっていく。このような学級を育てるた



めに、どんな姿を捉えて子どもたちに返していくか、温かく、そして、厳しく見つめる「心の目」を磨くことも大切に行っています。

子どもたちを取り巻く社会が変わっても、子どもたちは、できるようなりたいという気持ちをもっている。その気持ちが引き出せるよう、今日も子どもたちと本気で向き合います。「先生、言いたい!」「○○さよ」などの言葉が飛び出し、「勉強するっておもしろい!」という声が上がるとの楽しみ。



新たななる化学反応を目指して…

山口市立小郡中学校

教諭 小倉 美紗子

「開けてみなくちゃわからない」。三つの小学校が一緒になる本校では、どんなに予測しても思いがけない出来事が次から次へと起こります。だからこそ、その新たななる化学反応を恐れず、楽しむことにしています。

とは言っても、最初の学級開きは、その後二年間の学級運営を左右してしまうので、なかなか眠れない夜が続きます。そこでいつも自分は、その学年を考えています。昨年は、一年生だったので、「3つのC」にしました。「チャンス」を見つけて、「チャレンジ」して、自分を「チェンジ」してみよう。そんな具合です。こんな感じで学級開きを迎えても、決まって最初にクラスの子どもたちの顔を見て思うのは、「どうか文化祭の合唱コンクールにみんなが出来ますように…」です。それは私の苦い経験があるからです…。

私が初めて担任をした頃、ちょうど新型インフルエンザが大流行し、世間を騒がせた年でした。初めてのクラス合唱だったので、随分と気合が入っていたのですが、何と本番当日、私のクラスだけが学級閉鎖となってしまうました。なんとかステージに上がって歌うことはできましたが、メンバーは半分以下、歌い終わりと同時にその



まま下校。結果を聞くことも文化祭を楽しむこともできませんでした。

担任として、どんなに努力してもどうにもならないことは山ほどあります。しかし、それにめげることなく、最善を尽くし、真摯に対応する姿勢はこれからも持ち続けていきたいと思っています。と、同時に、私もクラスの一員として、新たななる化学反応に加わっていこうと思います。

教職時代を偲ぶ



防府支部

馬庭 清志

小学校の教員を定年退職後、初任研指導教員として四年目を迎えている。仕事が若い頃を思い出すことがある。今から約四十年前、山口県立豊学校に臨時採用で勤めたのが、教員としてのスタートである。経験も専門的な知識も乏しかった私は、授業づくりに悩んでいた。先輩から、「授業で大切なことは子どもの内言を引き出すこと」と指導を受けた。はじめはその意味がよく分からなかった。しかし、徐々に「内言とは言葉になる前の気持ちの高まりのようなもの」と理解した。よし、それなら子どもの内言が表れる授業をしよう。教師としての努力の方向性が少し見えた。

翌年、新採用として旧厚狭郡の小学校に赴任した。そこでほしかったものを手にした。ビデオカメラである。確か、給料の四倍ぐらいした。炭鉱跡が残っていた校区は、昭和の中頃まで人口が多く、町も賑わっていた。それなら、当時は映像で再現し、子どもたちにもふるさとへの自信と愛情を持たせてやろう。そこで当時働いておられた方と一緒に山に入り、炭鉱跡をまわった。雨が激しくなり、山道でころんでしまったが、カメラは身体でしっかりと守っていた。学校に持ち帰り、映像を見るとほとんど何も写っていなかった。再度、一人で山へ。苦労もあつたが、授業で映像を見る子どもたちの目は輝いていた。少しだけ子どもの内言を引き出せたように思った。体験や間接体験が子どもの心を揺さぶる。住んでいる地域ならなおさらである。教

師としての方向性がまた少し定まった気がした。

三年後、防府市内の小学校に勤務することになった。防府と言えば、江戸時代に干拓によって広がった山口県一の広い平野。そこで、「当時、ここは海だった」の証拠集めをすることにした。近くに住むもの同士でグループを作って調べた。A班は帰りにガソリンスタンドに行つて聞いた話を発表する。「タンクを埋める穴を掘った際、木やゴミが大量に出てきた。昔、潮の流れによって集まったものらしい」と。まさにそこは、島の東西から潮がぶつかる「潮合」という地名であった。A班の発表に心を動かされたB班は調べ直し、「うちの裏山には千石船をつなぐ大きな『千石岩』がある」と、お年寄りから聞いた話を発表する。近くの中関港は江戸時代全国から千石船（北前船）が集まったところ。海であつた証拠集めは、子どもから力をもらい、地名調べ、江戸時代の干拓とその広がりへと発展していった。子どもにも働きかけたのは教師。しかし、子どもの心をより動かしたのは、子どもによる働きかけであつた。子どもが子どもと教師を動かす。目指すべき方向性に新たな深まりが加わつた。

それから約三十年間、地域の教材と子どもが向き合う授業作りに取り組んできた。時代の要請から現在のアクティブラーニング（課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び）が叫ばれている。昔と教育環境が変わり、同様な授業作りは難しいが、子どもの内言の表れに目を向けた授業、地域を調べる中で多様な学びを手にし、子どもも教師も成長していく授業は、今も魅力がある。若い教師たちを見ると、そうした授業作りに関心を持ってくれたら……という想いも浮かぶ。微力故に授業作りに無我夢中であつた若かりし頃が、ご指導いただいた多くの諸先輩、出会つた子どもたちとともに、なつかしく思い出されてくる。

終身会員の紹介

豊田 懐也 様 (阿西)

第二回通常理事会 二月五日(月) 山口県教育会館

議事 【第一号議案】 平成30年度山口県教育会事業計画書

(案) について

【第二号議案】 平成29年度山口県教育会臨時評議員会の開催について

第一号議案では、平成30年度の活動方針・事業計画・収支予算書について慎重に審議され、すべての議案が提案のとおり承認されました。

報告並びに協議

報告では、代表理事及び業務執行理事の自己の職務の執行状況について報告がありました。

協議では、「第16回やまぐち教育の日・第45回教育県民大会光大会」について、平成29年度教育研究・地域活動等助成団体について、平成29年度会員状況について成果と課題に関する意見交換を行いました。



臨時評議員会 二月十九日(月) 山口県教育会館

議事

【第一号議案】 平成30年度山口県教育会事業計画書 (案) について

山口県教育会の平成30年度の活動方針・事業計画・収支予算書について慎重に審議された結果、議案は提案のとおり承認されました。

報告並びに協議

報告では、山口県教育会理事の任期満了に伴う新たな理事候補者の選考のために、役員等候補者委員会を設置する旨の報告がありました。

協議では、「第16回やまぐち教育の日・第45回教育県民大会光大会」について、平成29年度教育研究・地域活動等助成団体について意見交換を行いました。光大会の内容が充実していたことから、多くの現職教員の参加を望む意見、助成団体に地域差があることから各支部が広く助成事業を活用してほしい等の意見が出されました。





会員数：約17,000人

一般財団法人 山口県教育会

入会のご案内

会員になって、子どもも大人も夢をもって生きる豊かなコミュニティづくりを応援しませんか!!

あなたの会費を
こんなことに役立てます

- 学校(園)の教育活動を支援します**
 - ・個人、学校(園)、グループ、サークルへの研究助成
 - ・「教育維新・青年教師の集い」の開催
- 地域活動を推進します**
 - ・「やまぐち教育の日・教育県民大会」の開催
 - ・地区別教育振興フォーラム、史蹟探訪等の地域活動助成
- 伝統文化を継承します**
 - ・「金子みすゞ賞」童謡詩募集
 - ・「わたしの志」作文募集
 - ・地域の文化遺産や伝統文化の継承活動助成
- 情報紙「山口県教育」を発行します**
 - ・会員相互の情報交流

詳しくは、ホームページをご覧ください
<http://www.ykyoikuk.or.jp>

入会にあたって

- 1 対象**
 - ・保育園・幼稚園、学校等の現職教職員と退職者
 - ・一般県民、学校(園)のPTA会員、教育関係機関の職員、諸団体の職員
- 2 会費(年会費)**
 - ・通常会員……………2,000円(初年度は1,000円)
 - ・賛助会員……………3,000円
 - ・終身会員……………50,000円(入会時のみ)
- 3 入会申込**
 - ・現職の教職員は、学校(園)の担当者に
 - ・一般の方は、(一財)山口県教育会事務局、または、各支部(県内28支部)担当者に

(一財)山口県教育会(組織課)
TEL 083-922-0383
FAX 083-922-5768